

垣添 忠生 先生より、荻野センター長にメッセージを頂戴しました。

垣添 忠生 先生

公益財団法人医用原子力技術研究振興財団 理事長

公益財団法人日本対がん協会 会長 ([日本対がん協会 HP](#))

がんサバイバー・クラブ 創設者 ([がんサバイバー・クラブ HP](#))



### 垣添先生から荻野センター長へのメッセージ

2017年3月1日付で、メディポリス国際陽子線治療センター長に就任された荻野尚先生は、私が国立がんセンター総長をしていた時に国立がんセンター東病院陽子線治療部門の部長をしておられました。同氏は日本に陽子線治療が導入された最も早い時期から陽子線治療に従事され、国内では最も経験豊富な放射線治療医の一人と申せましょう。

実は、私の妻も荻野先生に陽子線治療をしてもらいました。妻は、2000年に左の肺に腺がんが見つかりました。この時は楔状切除を受け治りましたが、2006年春、今度は右肺の下葉の中心6ミリの影が見つかり、新たながんと診断されました。持病の膠原病でステロイド治療を受けてきた影響で肺の組織が脆くなっていること、それに6ミリの影は下葉の中央にあるため、手術をすると下葉切除となり、術後、最悪のシナリオでは在宅酸素療法が必要となるかもしれないことから、手術は回避して、先進医療である陽子線治療を受けました。この治療で完全に影は消えたのですが、半年後に右肺門部にリンパ節転移が1ヶ所生じ、CTガイド下の針生検の結

果、悪性度の高い小細胞肺がんであることがわかりました。抗がん剤で治療しましたが全身に転移して、全経過1年半で亡くなりました。わずか6ミリのがんを治せなかったのは、小細胞肺がんが難治がん中の難治がんだからでしょう。残念です。

高齢者や何らかの要因で手術が受けられない患者さんにとっては、陽子線治療はとても身体に優しい治療です。今後、陽子線治療がさらに普及し、多くのがん患者さんの福音につながることを期待しています。

鹿児島県指宿の地で、荻野先生を中心とするチームが陽子線治療を積極的に展開され、多くのがん患者さんを救命されることを願っています。